

令和6年度自己評価結果公表シート

作成 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大

学付属いずみがおか幼稚園

1、本園の教育目標

温かく安らぐ生活の中で、豊かな感性、好奇心、思考力の基礎を培う

【望ましい子ども像】

- ・健康な生活の仕方を身につけ、自分のことを自分でしようとする子ども
- ・自分を大切に、友達も大切にする子ども
- ・ちがいを受け入れ共に育ちあう子ども
- ・よく見、よく聞き、よく考える子ども
- ・心をうごかし、やってみようとする子ども
- ・感じたことを豊かに表現し、自分らしくのびのび生活する子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・一人ひとりが「ありのまま」でいることができる安心を感じられることから、自ら色々な環境にかかわるわりたくなる気持ち（意欲）を育む。
- ・「園の保育で大切にしていること」に対して、同じ思いをもち、その中で教職員がそれぞれの個性や得意なことを生かし保育に向かえる環境を整えることでチーム力を上げ、保育の質の向上につなげるようにする。

3、達成状況

研究テーマ 『 子ども・子どもにかかわる大人のウェルビーイング 成長の支援を考える 』

(1) 幼保連携型認定こども園としての教育・保育の創造

① 切れ目のない子育て支援を行う。

- ・特に在宅で過ごす子どもと保護者に対して、いろいろな人や環境にかかわって過ごせる機会の提供（未就園児クラス、園行事への招待、園庭開放等）安心できる、ホッとできる場所を提供した。
- ・保護者が専門家に相談できる場を提供するとともに、保護者の要望に応じ専門機関とつなぎ連携を取り、チームで保護者対応をしたことで保護者の不安を和らげた。

② 小中学校、関連機関と連携を取り情報を共有し、子どもの安全を確保するとともに家族支援を行った。

また、地域青年育成委員等で子育てイベントを企画、連絡会に参加する等地域で多様な子どもの状

況を

一緒に見守った。

③ 地域小学校との交流会で、年長児が進学する小学校教諭とカンファレンスし情報共有したり、小学校の生活、幼稚園の生活を互いに知ったりすることで小学校への接続が滑らかなものとなるように努めた。

(2) 園児の生活の充実と安全確保

- ① 子どもの話に耳を傾け、言葉にならない思いに対しても「何を伝えようとしているのか」表情やしぐさから汲み取りかかわることで子どもが安心して意欲的に生活する姿になっていった。このような保育教諭の姿勢は保護者の安心につながっていると保護者アンケートで評価いただいた。
- ② 園内研究保育をする中では、保育計画案や保育実践での学びが多くあり、子どもの興味や関心を理解する力にもつながり専門性を高めることとなった。子どもの姿から考える保育、環境構成の大切さを再確認できた。
- ③ 互いに語り合い学び合う同僚性の高まりから子どもを多面的に見ることで子どもの自己肯定感や自信の高まりにつながった。

- ④ 保護者アンケート結果を保護者に公表したことで、多様な保護者の思いを知ってもらえる良い機会となり、園理解にもつながった。また、保護者の貴重な意見を真摯に受け止め、改善が必要であると思われる項目に対しては話し合いを行い対応することとした。
- ⑤ 園舎建物診断、建物漏水調査、遊具安全点検士による園庭遊具の安全点検、専門業者による遊具や施設のメンテナンスを行い事故の予防に努めた。
- ⑥ 2号認定こどもの増加とともに、夕食対応児も増えてきつつあった。給食、預かり保育担当者との連携を強化するとともに、職員配置やシフトの見直しが必要となった。今年度はびっころ会議が定期的に行えなかった時期もあったので、時間と職員配置の調節を行い子どもの気持ちに寄り添う保育がより充実するようにしたい。
- ⑦ 仕事の効率化として計画的に仕事を進めようとしたが、預かり保育中の子ども対応や、緊急の保護者対応で予定通りに仕事が進まないことも多くあった。どの教職員であっても子どもや保護者にとって安心できる人になれるよう、日々のかかわりの中で信頼関係を築いていけるよう意識していくとともに教職員間での連携を密にする改善点が見えた。

4、 学校関係者評価

- ・令和6年度より、地域子育てフォーラムが各園の行事と地域子育て支援とコラボレーションしたものに形を変えて実施することとなり初回に本園の「夏まつり」に招待。「色々なお店や先生たちの仮装がとても工夫されていて楽しかった。」「初めて園内に入ったが施設が今時でとてもきれいだった。」「機会があればまた来園したい。」という声が聞かれた。
- ・地域学校公園清掃に共に参加、子ども達の描いた絵がポスターになり地域の方に見てもらえたことでそれぞれがごみの始末に意識できた。「子どもの手作りはいいですね。」との声をいただいた。
- ・地域学校との家庭見守り情報共有と、それぞれの立場からできる家庭支援を行い安心して生活できる環境を整えた。その時の状況に応じスピード感を持って対応したこと、最新の情報を共有できたことでそれぞれの立場の者に寄り添えたことはとても心強かった。「日ごろからつき合いをさせていただいているからこそできたことだ。」とお言葉をいただいた。

5、今後取り組むべき課題（令和7年度計画）

課 題	具体的な取り組み方法
【教育・研究課題】 『つながる保育を考える 人とのつながり・時間のつながり・経験のつながり』	・3つの視点から保育を振り返り、明日の保育を考える。その時子どもはどう感じていたか、何を思っていただろうか。他にどのような方法があっただろうか。また「つなげる」保育者の役割も考える。

6、財務状況 公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。